

令和3年12月（2021年）No.672

コロナ禍の発表会

大阪アマチュア映像祭無事終了

会長 合原一夫

コロナ禍のせいで、こんなにも発表会の実施に手配と経費がかかるとは、予想していたものの、やはり大ごとだった。とくに大阪市立中央図書館との共催事業である「大阪アマチュア映像祭」の場合、まず申請書類が多く、事務局長で中央図書館とメール等でのやり取りや、計画書、結果報告書（参加者人数、予算、決算書等）の作成など、お骨折り頂いた岡本至弘氏には、大変大きな負担をおかけしましたのでここで改めて感謝申し上げます。

今回は入場者制限で、80名とされていた為、プログラム発送も控えめに抑えて発送したが、希望者がオーバーしたため、十数名の方にお断りの結果通知を出さざるを得なかった。又、関係者はスタッフ扱いとして処理したので、ロビーでのテレビ鑑賞の会員さんも発生したが、総じて平穩に、予定通りの時間内に終了できたことで、ほっとしているところである。

それにしても見に来たいと思われる一般の方々には、ハイどうぞどうぞと、喜んで全員の方に来て頂くように元に戻りたいものである。11月下旬にはコロナ感染者が激減して活動ももとへ戻りつつあるが、南アフリカあたりで又、強烈な異変株が発生したとのニュースや、第6波も来るんじゃないかななどの話もあり、会場定員の半減制は来春3月27日の「日本を縦断する映像大阪発表会」も同じようなやり方が求められるのではないかと覚悟している次第である。



受付



会場内



会場内



岡本事務局長



合原会長

12月例会のご案内

- 通常例会；第4土曜日25日より、難波市民学習センター
- 幹事会；例会日の午後13時より、年度賞等検討会
- 世話役会；例会日の午後15時より、役割分担の件他、軽食提供

- 元会員・安居利次さんが亡くなりました(8月)事をご家族からの喪中はがきで知りました。平成9年2月奥さんの良枝さんと共にOMCに入会、数々の名作を作られたが、平成15年奥様が亡くなられ、利次氏も骨折で平成21年11月の例会を最後に退会、映像の世界から遠ざかっておられました。ご冥福をお祈り申し上げます。(合原)

作品作りの基本を見直そう

第2例会で作品研究会開催

来年の発表に向け、良い作品、自信の持てる作品を各自、それぞれ少なくとも1本は作りましようとの掛け声で始まった活動で、早速第2例会で勉強会が行われた。合原講師のもと①作品を創ることの狙い、目的をまずはっきりさせる事②この狙い、目的にふさわしい題名を考える③作品の狙いが決まったら、それをどう展開してゆくかという構成を考える事、トップ、出だしと締めくくり、ラストをどうするか、話の順序を考えてみる④大まかな構成を作ったら具体的にナレーションの文章を考えるなど編集の順序を考える⑤そして編集作業に入る、BGMを考える、必要なら特殊効果を考える等々の手順になる。

■ 素材を分解してカードにしよう

最初の構成を考える時に役立つ例で、一度やってみて下さい。トップからラストまでの素材カードを並べてストーリーを考えているうちに、不足するカットが出てくる、この時は撮り直しが効く場合は撮り足しに撮影に行くか、代替案を考えるのも一案である。

■ ラストの余韻を大切にしよう

まだ喋っているのにエンドマークが出たりするのは論外。最後のナレーションが一番大事、それを読み終わってから終わりマーク迄20~30秒は欲しい。余韻を大事にしよう。皆さん頑張ってください！

11月 通常例会レポート

11月通常例会は第4土曜日27日、いつもの難波市民学習センターにて開催。このところ気温も下がって冬支度の会員さんも定刻の18時には12名が参加、10本の作品が出て盛会となった。コロナ禍もこのところ感染者が激減しており明るさも見えてきた11月例会となった。

- **運営担当**：司会 進藤、書記 合原、映写 坪井、岡本、メモリー記録 江村、YouTube関係 進藤 受付・照明 宮崎、森下の各氏

- **出席者**：江村、岡本、上総、紙本、合原、進藤、高瀬、坪井、中川、宮崎、森下、山本氏の12氏
上映作品(今月の講評は合原会長)

- 1, 紅葉の毘沙門堂 BD
宮崎紀代子 4分00秒

<作者コメント>

京都市山科にある毘沙門堂は天台宗の寺。本堂裏にある晩翠園は山寺らしい静かな佇まいに鮮やかな紅葉が印象的。

<会長コメント>

静かな佇まいの寺、美しい紅葉。恐らく一日行って撮って来られたものと思われるが、結局、何を伝えたいのかポイントが無いので「行って撮ってきました」という段階から抜け出していないのは残念。

- 2, 加悦鉄道 BD
紙本 勝 12分50秒

<作者コメント>



かつてはニッケル鉱を運んだ加悦鉄道は昭和 60 年に全線廃止となった。そこで蒸気機関車、ディーゼル機関車を展示した SL 広場から、丹後山田駅（現与謝野駅）迄、里の風景を眺めながら、江村氏と 2 人で 5.7 km を歩いた。

<会長コメント>

京都府与謝野町には鉄道車両を展示してあったり、何かと話題性のある場所のようだ。お元気な紙本さん、ここでも廃線跡 5.7 km を歩いて撮影してこられたその成果が、作品にも表れていて良かった。



3, 信州の街道 BD
山本正夢 8分30秒

<作者コメント>

信州に3泊の旅行を冬になる前に行きました。
昔からの街道宿場が多く残されている。

<会長コメント>

あまり人が行かない珍しい海外旅行の作品を持参されて、私たちを楽しませて頂いている作者だが、例のコロナ過で海外へ行けなくなったので、と国内旅行を楽しまれている。今回は信州の街道がテーマで中山道宿場町奈良井宿、街道宿等をはじめ小諸城や松本城等幅広く撮影されている。秋の風情をよく取り入れられてよい作品に仕上がっていた。



4, 追憶 My Memorys BD
坪井仁志 4分50秒

<作者コメント>

私にとって
忘れえぬひとたち
そんな思い出を綴ってみました。

<会長コメント>

全く懐かしい映像ゆかりの故人たちが出てきて当時を思い出した。有村博さん、秦峰一さん、安居利次さん、河合源七郎さんそして吉岡貞夫さんの姿もちらっと出てきた。今から 10 年以上も前の映像が多いが、故人を知っている人には懐かしく貴重な映像に違いないが、知らないひとにとっては何ら感慨も湧かないであろう、という作品だが、我々世代にとっては貴重。



5, 360 度の世界・光の饗宴 BD
中川良三 5分18秒

<作者コメント>

最近、360 度カメラが小型化軽量化され手軽に入手でき、又編集も自在にでき画質もよいというので購入。購入後いろいろな所で撮影したが、昼は少しインパクトがないので、夜の御堂筋（難波～淀屋橋）を撮影してみた。いろいろアングルを変えて編集してみた結果が今回の作品となった。



<会長コメント>

以前、元会員の井上勝彦さんが「3D 立体映像を披露」という見出しで、平成 20 年（2008 年）9 月号の OMC ニュースに掲載されています。あれから 13 年、先覚者井上氏の二代目がついに現れたかといった思いで拝見。小型の特殊カメラを使うとこんな表現も出来るんだという事を見せて頂きました。こうした効果を

作品の中で生かすには、ここというところに一回だけ使うと印象的な作品になるかも知れませんね。何回も使っては単に“こんなことも出来ます”といった程度の物になってしまいます。

6, 旧生駒トンネル BD
江村一郎 8分00秒

<作者コメント>

東大阪市日下町に孔舎衛小学校があります。日下は知っていたが「孔舎衛」を「くさか」と読むとは知らなかった。

その「日下」の旧生駒トンネルは明治44年に近鉄の前身である大阪電気鉄道（大軌）により着工する。日本初の標準軌道トンネルで工事は大林組が請負、難工事の末、大正3年に開通するが、大林組、大軌ともに一時経営危機に陥る。トンネルが珍しかった頃の大正時代そして昭和・令和の日下地域の変遷をたどる。

<会長コメント>

よく調べて作られています。紙本さんの青山トンネルの事故の話などを用いて物語を作られると、更に深みのある作品になるかも知れません。

7, コロナから蘇って秋を楽しむ BD
進藤信男 10分45秒

<作者コメント>

9月30日、コロナ禍による緊急事態宣言などがすべて解除されたことを機会に気分一新。現用しているHDカメラの不調改善の為修理しようとする、保守期限が来年前半に到来することが判明。新たに4KHDR撮影が出来るようにした。いわゆるフル4Kとなると、ディスプレイの表示能力の違いが画面のインパクト感として明確だった。HLG方式とすることにより、色深度HDRによるカラーコーディネイトなしで扱えるので、編集そのものはHDと変わらない、編集プロジェクトの定義、取り扱うデータの定義を確認すれば移行にはそんな負担感が無い。一昨年江村さんの協力を得て試行した時と同じPCも在来の物を使用。

例会発表では、映写環境に合わせるための従来通りのフルHDにデータを変換している。暫くはこの方法で発表が続くことになりそうだ。早い機会に、仲間が増えることを願っています。

30p映像のカメラなので、野鳥撮影ズームアップではどのようになるか確認しながら進めたいと思う。撮影地の万博公園は、訪れるお客さんを見るとコロナ禍の影響がそのまま表れている。四季折々の自然は確実に移っているが、催事はひっそりとしたものだったが、全面解禁で幾分開放感が出てきているように感じた。来場者の数も、だんだん増えているとのことだった。

<会長コメント>

コロナ禍と結び付けて広い万博公園を描くには少し無理があるように思いましたが、開放感のある万博公園、やはり、いいですね。

8, 自転車考 BD
合原一夫 6分07秒

<作者コメント>

普段便利に使っている自転車、ふと公園ベンチに腰掛けて考えた。自転車っていつ頃どの様にして作られ、今日の自転車になったか？これをテーマに作品にしようと堺の自転車博物館に行って調べてきた。この作品のテーマは自転車の発祥の歴史であり、トッ



プの導入部は自転車の事を考えているシーン、そしてラストは、自転車に感謝の気持ちを込めて長く生活を共にしてきた我が自転車の手入れをしているところで締めくくった。

9, 広電の詩 BD
高瀬辰雄 8分00秒

<作者コメント>

広島路面電車はその距離、電車の総数とも日本一を誇り、町の交通の主演。走っている電車もカラフルで、新しい電車から神戸、大阪、京都から移籍した古い電車も数多く走っている。京都市電は昭和53年廃止され、京都では見られないが、広島ではまだ10数輛が健在だという、そんな路面電車は撮影していても楽しいものがあります。メインの作品は京都市電が“主演”の予定で、これはサブ作品です。

<会長コメント>

新旧、様々な市電が走る広島市の中で、京都市電が頑張っています。次作にこの京都市電を主演にした作品を制作中という事で楽しみにしています。

※

上総秀隆氏持参の「市民と野党の共同街宣」は、機器との合性が悪いのか再生できなかったことは残念でした

11月第2例会レポート

第3木曜日18日13時より開催。この日は作品上映の後、合原会長より別項の通り、編集までの作品の狙い、後世、脚本について講義があった

■ 運営担当：司会 進藤、書記 高瀬、映写 中川、岡本、メモリー記録 江村、YouTube関係 進藤
受付・照明 宮崎、森下の各氏

■ 出席者：植村、江村、岡本、紙本、合原、進藤、関、高瀬、中川、中村、森下、宮崎氏の12氏
上映作品

1. 神戸 相楽園へ

中川良三 6分57秒

(作者コメント) 2016年11月に神戸に行った時の記録。目的は神戸市立博物館での松方コレクション展で、帰りに相楽園へ。天気も良く、秋晴れの中、日本庭園や異人館「旧ハッサム邸」を見学した。恒例の催し「菊花展」が開かれていて、菊のかおりを嗅ぎながら過ごした一日でした。再編集しながら今年はコロナの影響で「菊花展」や途中見た準備中の「ルミナリエ」は開かれるのだろうかと思なった。

(書記コメント) 帰り道に立ち寄った相楽園への道すがらを、紹介しながら作られた作品。ラストは訪ねた先をオーバーラップで振り返り、神戸は文化、歴史共に興味をそそられる街、とうまくまとめられている。ただ相楽園の菊花展のシーンが2分10数秒あり、全体から見ると長過ぎる印象。

2. 長良川鵜匠

江村一郎 7分21秒

(作者コメント) 25年前のOMC撮影会からスタートする「長良川鵜匠」。当たり前ですが、令和元年の鵜飼いと違いはさほどない。山下鵜匠も健在で、それほど変わったように見えない。しかし撮影



環境は大きく変わる。Hi8そしてDV、HDV、今ではフルハイビジョンが普通となる。作品のレベルはどうかという問題はあるようです。

(書記コメント) 25年の時を経て、鶴匠の風貌は変わったが、変わらない長良川の鶴飼風景、鶴匠の話とか興味をそそり、鶴飼船の背後に上がる花火のシーンは情緒満点。もう少し鶴匠の手綱さばきといった映像が見たい気もする。

3. サイゴン

関 剛

11分06秒

(作者コメント) 平成19年(2007年)にツアーでベトナムへ行った最初の都市。3連泊でしたが、自由時間が少なく、なんとか編集できたのはこの4カ所だけ。令和3年9月に一部の映像を入れ替えて再編集。音楽などは元のままです。人物のアップが多く出てきますが、当時は人びとが皆素朴で外国からの観光客が珍しいこともあって、間近でカメラを向けてもいやな顔をしませんでした。今はもう、このような撮り方は難しいと思います。



(書記コメント) 14年前のサイゴンの街の様子を撮られている。「人物のアップが多く出てきます」とコメントされているように、さりげないカメラワークでベトナムの人、特に女性の表情を活写されている。

4. みかん狩

宮崎紀代子

6分39秒

(作者コメント) 堺市別所にあるみかん園は、みかんの木の1本ずつがオーナー制となっている。各自がこの木を選んで収穫し終えるまでがオーナーとしている。もう20年来このみかん園は続いている。



(書記コメント) オーナー制のみかん狩りがあるのを初めて知りました。みかん狩りに興じるご家族の楽しそうな様子が画面いっぱいに描かれている。

5. 再びの安乗

高瀬辰雄

12分06秒

(作者コメント) 三重県志摩半島の安乗岬では古くから人形浄瑠璃が行われている。今から43年前の昭和53年に初めて訪れ、8ミリフィルムで撮影。そして22年後の平成12年に再訪し、今度はビデオで撮影した。この二つの映像をからませ編集しました。8ミリは対比を目立たせるために、あえてモノクロにしてみました。なお平成12年は京都映像サークルの撮影会で行きました。



6. 雑草都市

合原一夫

8分04秒

(作者コメント) インド第二の都市、カルカッタは東の玄関口として栄えている。人口は1千万人といわれる大都市であるが、貧富の差が激しく、底辺で生活している大半の人たちは貧しいながらも懸命に生き、明るく働いている。その現状を描いた作品である。題名は作品の「ねらい」からこういうタイトルになった。



(書記コメント) 映写後の講習で、カルカッタの様子が詳しく分からないまま撮影したが、その素材の中からテーマを見つけ、ふさわしいカットを選び出して編集されたという。作者の制作意図が明確に表現されている作品と言えます。